

平成 29 年度第 1 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 29 年 6 月 19 日（月）午後 1 時 30 分～午後 2 時 50 分

場 所：浜松市役所本館 8 階 第 4 委員会室

出席者：伊豆裕一会長、寺田聖子副会長、李屋英夫委員、和久田明弘委員、谷川真美
監事、山名裕監事

欠席者：桧森隆一委員、佐藤洋一委員（代理出席：瀧下且元産業振興課長）

オブザーバー：佐藤宏明国際課長、中村公彦創造都市・文化振興課長、鈴木三男創造
都市推進担当課長、藤田健次生涯学習担当課長、鈴木和彦観光・シテ
ィプロモーション課長

報道関係：7 人（中日新聞社×2、静岡新聞社×1、朝日新聞社×1、テレビ静岡×1、
静岡朝日テレビ×1、SBS×1）

傍聴者：2 人

事務局：影山元紀主幹、松本芙峰明主任（以上、創造都市・文化振興課創造都市企画
調整グループ）、森下和之副主任、新山隆平主任、小田実佳（以上、創造都市
事業推進グループ）、杉本和徳創造都市・文化振興課長補佐

1 開会

（事務局 松本）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、浜松市創造都市推進会議の平成 29 年度第 1 回を始めさせていただきます。

本日は、桧森委員と佐藤委員が所要により欠席となっておりますが、佐藤委員の代理として、瀧下産業振興課長に出席していただいております。また、過半数を超える委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

本日、机上に配布しました会議資料について確認いたします。

（※資料 1～4 について配布確認）

以上でございます。不足はありませんでしょうか。それでは、ここからの進行は伊豆会長にお願いいたします。

2 議事

審議事項 1 平成 28 年度浜松市創造都市推進会議事業報告・決算報告について

（伊豆会長）

それでは、議事にはいります。まず、審議事項(1)「平成 28 年度浜松市創造都市推進会議事業報告・決算報告について」、事務局から説明をお願いします。

（事務局 松本）

（資料 1「平成 28 年度浜松市創造都市推進会議事業報告及び決算報告」に基づき説明）

（伊豆会長）

ありがとうございました。浜松市創造都市推進会議規約第 7 条第 3 項では、監事は会計

を監査し、監査結果を推進会議に報告する、となっています。そのため、谷川監事から監査報告をお願いいたします。

(谷川監事)

平成 28 年度浜松市創造都市推進会議の歳入・歳出について、帳簿及び証拠書類を 5 月 26 日に監査いたしました。その結果、適正に処理されていることを認めましたので、報告いたします。

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました事業報告・決算報告について、何かご意見やご質問はありますか。

(伊豆会長)

支出の調査研究事業費について、予算額に対して少ない金額の執行で、平成 29 年度への繰越金が 529,614 円となっています。この繰越金については、調査研究事業費に充てるのでしょうか。それとも、別の事業費に充てるのでしょうか。

(事務局 影山)

平成 28 年度第 3 回会議のなかで、平成 29 年度の事業計画及び収支予算（案）をお示ししております。ある程度の繰越額が想定されておりましたので、それを見込んだ収支予算を編成して、委員の皆様にご承認いただきました。3 月にお示しした収支予算に基づいて、予算を執行してまいります。

(伊豆会長)

ありがとうございました。他に、特段の意見がございませんようでしたら、この事業報告・決算報告を決議してよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、この事業報告・決算報告を決議いたします。

審議事項 2 アクションプログラム進捗状況、モニタリング指標について

(伊豆会長)

次に、審議事項 (2) 平成 26 年度に策定した「アクションプログラム」の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 松本)

(資料 2「アクションプログラム進捗状況、モニタリング資料について」に基づき説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました「アクションプログラム進捗状況、モニタリング指標について」、何かご意見やご質問はありますか。

(和久田委員)

モニタリングについて、新規事業所届出件数は、期待する数値となっていないと思いますが、仕方がないのかなと思います。逆に、宿泊客席数及び外国人宿泊者数と創造都市ウェブサイトアクセス数は、前年度の数値からプラスになっており、良い傾向だと思います。

(伊豆会長)

1世帯当たりの文化にかかる年間支出金額が、平成27年に比べて、マイナスになっていますが、何か特質すべきことはありますか。

(事務局 松本)

楽器、音楽映像収録済メディア、音楽月謝、映画・演劇等入場料、文化施設入場料にかかる支出金額の5項目のなかで、音楽月謝の金額が7,085円と一番高い割合を占めていました。

(伊豆会長)

つまり、少子化の影響もあって、子どもの数が減っており、音楽月謝の金額が下がっていることが主な要因ではないかということですか。

(事務局 松本)

はい。

(空屋委員)

フェイスブックを開設したという話がありましたが、このウェブサイトアクセス数は、フェイスブックの数値ですか、それともウェブサイトの数値ですか。

(事務局 影山)

モニタリングの数値としては、ウェブサイトのアクセス数を採用しています。昨年度のモニタリングのなかで、桧森委員からこの数値をもっと伸ばしていかなければならないというご意見をいただきました。

そのため、職員がフェイスブックにおける記事の投稿に力を入れ、その結果前年比で倍増という結果につながったと思っています。

(伊豆会長)

ありがとうございました。それでは、今後も引き続きアクションプログラム進捗状況について、事務局で確認してください。

審議事項3 浜松版アーツカウンシルについて

(伊豆会長)

続いて、(3)審議事項「浜松版アーツカウンシルについて」、事務局から説明をお願いし

ます。

(事務局 影山)

(資料3「浜松版アーツカウンシル事業について」に基づき説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました「浜松版アーツカウンシルについて」、何かご意見やご質問はありますか。

(伊豆会長)

7月からプログラムディレクターの公募開始とありますが、7月の早い時期には公募を開始するということですか。

(事務局 影山)

これから公募要件等を作成して、委員の皆様にご意見をいただきたいと考えています。そのため、7月から8月ということで流動的になると思います。ただし、あまり遅くなってしまうと、他団体においても次年度の募集が開始すると思いますので、良い方が来られないということは避けたいと思います。

(和久田委員)

今回、事務局が確認したかったことは、プログラムディレクターの募集スケジュールが遅れるということ、本格稼働は平成30年4月からということ、選定にあたっては、転職サイト「BIZ REACH」等も活用していくということによろしかったですか。

(事務局 影山)

そのとおりです。資料内のアーツカウンシルのミッションと事業、プログラムディレクターに求められる資質については、あくまで事務局案ですので、これから委員の皆様のご意見を伺っていきたいと思います。

(谷川委員)

浜松版アーツカウンシルの事業は幅が広いと、最終的には、プログラムディレクターは、応募する方の顔ぶれも見ながら、ある程度の柔軟性を持った人選が必要になると思います。また、業務の内容が決まっても、プログラムディレクターの能力を活かしていくことが重要です。アーツカウンシルの事業のなかでも、コアとなるものに結びつけながら、作り上げていくということができると思います。

(伊豆会長)

浜松市にとって、プログラムディレクターの採用は初めてだと思いますが、過去に似たような事例や、現在考えているものがあれば、教えてください。書類選考に加えて、何らかの面接選考を行うということによろしいですか。

(事務局 影山)

先行する事例で、新潟市がアーツカウンシルを設置しています。この採用にあたっては、書類選考のほか、面接を行っていると聞いています。書類選考だけでは難しいので、何らかの面接選考は行いたいと考えています。

(山名監事)

プログラムディレクターの選定にあたって、ひとつの手法として転職サイトも活用するというのですが、アーツカウンシルの事業とミッションを良く理解していただき、転職サイトに伝わらないと、良い人材は集まらないので、しっかり整理していただきたいです。

(寺田副会長)

プログラムディレクターの方には、何を成し遂げていただきたいのかということを理解してもらい、それを市民の方にも理解してもらうことが重要になりますので、そのことを踏まえて、事務局で早急に進めてください。

(伊豆会長)

プログラムディレクターは、浜松にゆかりにある方だけではなく、全国に公募をかけるということで良いですか。

(事務局 影山)

全国に公募をかけていきたいと思います。

(伊豆会長)

例えば、外国人の方も想定していますか。

(事務局 影山)

そこまでは想定していませんが、外国人の方でも日本語に堪能な方で、海外にもネットワークを持っている方ということであれば、外国人の方を否定するものではありません。

(伊豆会長)

ありがとうございました。それでは、引き続き浜松版アーツカウンシルについて、事務局で進めてください。

審議事項 4 市民文化創造拠点施設の基本構想(案)について

(伊豆会長)

それでは、最後に審議事項(4)「市民文化創造拠点施設の基本構想(案)について」、事務局から説明をお願いします。

(鈴木創造都市推進担当課長)

(資料 4-1「浜松市市民文化創造拠点施設基本構想(案)」、資料 4-2「浜松市市民文化創造拠点施設基本構想概要版(案)」に基づき説明)

(伊豆会長)

ありがとうございました。説明についてご質問・意見がありましたら、お願いします。

(和久田委員)

施設の整備構想になりますので、このような書きぶりになると思います。ただし、ソフトあつてのハードになると思いますので、進めていく上では、施設の運営体制についても、具体的かつ並行的に検討していただきたいです。

質問ですが、暫定施設の音楽ホールについては、整備候補地やコンセプトはどのように考えていますか。

(鈴木創造都市推進担当課長)

1つめについては、そのようなことに注意して進めていきたいと思います。2つ目の暫定施設については、市民の方が困っている状況に、早期に対応していく必要がございますので、スピードが重視されます。そのため、暫定施設の土地の選定にあたっては、なるべく既存の建物がなく、そして市が所有する土地であること、権利変換を含めた土地に関する規制がないことを重要視しています。その結果、最有力候補地としましては、都田のセンター用地を考えています。拠点施設の整備に必要な10年と合わせて、暫定施設も概ね10年の利用に限定することを想定しています。暫定的な施設になりますので、必要最低限の機能としては、1,500席のホールはもちろん、それにリハーサル室を加えた施設を早期に整備してまいりたいと考えています。

(和久田委員)

いつごろから整備を開始して、どのくらいの期間で利用できるようになるのでしょうか。

(鈴木創造都市推進担当課長)

議会等に諮っていくプロセスもありますが、何らかの補正予算を計上するかたちで整備の準備に入っていきたいと思います。民間の活力を活用する整備のかたちをとりますと、早ければ平成31年度の当初には、工事に入っていれば良いかなと思っています。また、整備に関しても、期間がながくかからないかたちで、進めていきたいと考えています。

(空屋委員)

拠点施設のホールの席数については、どのくらいを想定していますか。

(事務局 影山)

1,000から1,500を考えています。

(空屋委員)

暫定施設は、どのようになりますか。

(鈴木創造都市推進担当課長)

1,500 です。

(空屋委員)

本日のこの会議をもって、この基本構想（案）を承認するのか、しないのかということです。市民の方の関心の高い内容になりますので、この場で承認しなければならないのか、あるいはもう少し時間をいただけるのかということですか、いかがでしょうか。

(事務局 影山)

こちらの基本構想（案）については、市の考え方をお示しするものです。6月中に市の考え方をまとめるようになっていきます。すぐに施設を建てるということであれば、いろいろと手続きを進めないといけないですが、今回はまず、元城小学校跡地の発掘を行い、エリア計画について市民参加で策定し、具現化していく構想になります。基本構想としては、本日の委員の皆様を踏まえたうえで、市の考え方として出させていただくこととなります。

(寺田副会長)

先ほどの話でもう一度確認ですが、拠点施設の候補エリアは、本庁舎から旧体育館跡地を含んだ敷地ということと、元城小学校跡地の発掘を踏まえて、エリア計画を策定していくということで、最低でも10年は期間がかかるということで捉えました。それと、暫定施設については、あくまでも期間限定という考え方ですね。

(事務局 影山)

スケジュールにつきまして、10年の中身を申し上げますと、元城小学校の解体にまず1年かかります。その後、発掘調査ということになりますが、今の浜松城公園については、幕末の時代の姿をイメージした整備が既に進められています。幕末の時代までの発掘を行うためには、概ね2年が必要だと言われています。さらに、その先の安土桃山や戦国の時代まで発掘を行う場合は、さらに2年が必要になります。ただし、幕末の時代までの発掘が終了すれば、ある程度のエリア計画は進められると考えます。この期間概ね5年かかります。そこから、施設の設計や工事に入りますと、どうしても5年はかかりますので、概ね10年と考えています。そのため、暫定施設について、同じ期間の10年間の限定ということになります。はまホール検証検討会では、公共施設の統廃合も提言されましたので、今後策定する文化振興ビジョンで、公共施設の統廃合を検討していくことが必要になると思っています。

(山名監事)

拠点施設の整備については、民間活力を活用していくということですが、暫定施設についても、民間活力を活用していくのですか。

(鈴木創造都市推進担当課長)

暫定施設も民間活力の活用を検討してまいります。DB（デザインビルド）の方式が早いですが、いくつかの手法がありますので、スピード感を出すという上では、現時点では民間活力の活用を想定しています。

(伊豆会長)

10年という期間についても、その時の浜松市や日本全体の人口構成もありますので、1,000から1,500というホール規模の適正化や、あるいは山口情報芸術センターを想定した創作スペースも、今であるからこそ技術的に旬であるということもあります。また、10年後にはヨコハマ創造都市センターのファブラボにあるプリンターも、どこの家庭にもあるという状況になるかもしれません。そのため、頻繁に見直ししていくということが必要になると感じました。

(和久田委員)

施設整備に10年かかるということですので、これをやったから次にこれをやる、というように想定したようには上手く進まないと思っています。例えば、創造拠点機能を今すぐにも立ち上げて、動かしていく必要があるのであれば、別の場所に実験的にまずは2～3年の期間で行っていくということも考えられると思います。そのため、まずハードを整備して、次にソフトというようにならないようにしていただきたいと思います。

暫定施設につきましても、アクトシティ浜松のホールを運営する立場としましては、有り難い一面もある一方で、誰が運営するか分かりませんが、競争相手が増えるということでもあります。施設のコンセプトを練られるうえでは、市内公共ホールの機能分担を考えつつ、上手く全体としての環境整備を進めていただきたいと思います。例えば、アクトシティ浜松は、コンベンション施設でもあるため、浜松駅前に立地しており、非常に有利な場所にあります。市民の文化活動で都田という場所を考えたときに、公共交通機関が整備されていない場所になりますので、如何に環境を整えてあげるか、あるいは使いやすくしてあげるか、という配慮をいただかないと、せっかくホールを整備しても、使いにくいという声が出てしまうことは残念です。また、ホールの性格もあります。アクトシティ浜松は、アクトシティ浜松で担う使命がありますので、それとは違うかたちで、より市民の皆さんが使いやすいホールを目指すという配慮を行っていただきたいと思います。

(鈴木創造都市推進担当課長)

暫定施設は、市民利用が中心ということになりますので、音響面も含めて、どのようなスペックが必要なのかということを検討してまいりたいと思います。それから、住み分けの考え方についても、利用の形態を考えた整備をするなかで、自動的に形成できると考えています。アクセスにつきましては、若干遠い場所にはありますが、駐車場の整備が可能です。車社会の浜松につきましては、駐車場へのニーズが高いと想定していますし、学校教育団体の利用については、大型バスの乗り入れに対する対応が必要になると思います。そのため、距離的に遠いという問題に対しては、ある程度の駐車場台数を確保しつつ、公共

バスの本数も充実しているとはいえないため、調整を行ってまいりたいと考えています。

(谷川監事)

市民の文化創造活動を創り出す新しい施設を整備することと、はまホールが使えないという直近のニーズに対応する暫定施設の整備という 2 つの側面があります。市民文化創造拠点施設の整備が進んでいけば、暫定施設の機能については、新しい拠点施設に移転していくということになると思います。ただし、新しい拠点施設については、暫定施設の機能だけではなく、それ以外の幅広い機能も付け加えていくという理解をしました。

暫定施設の機能については、はまホールが使えないというダイレクトなニーズに対して、とりあえず対応していくという考えでよろしいですか。

(鈴木創造都市担当課長)

直近のニーズに対応していくのが暫定施設、長期的なビジョンに立って創造都市の観点から整備していくのが、市民文化創造拠点施設ということになります。

(谷川監事)

拠点施設と暫定施設の機能で、一部重複する機能があるにしても、新しい拠点施設については、単なるはまホールの機能が移っていくだけではないということ、市民の方に分かりやすく説明していくことが必要になると思います。

(伊豆会長)

先ほど元城小学校跡地の発掘に 2 年ぐらい時間がかかるという説明がありましたが、発掘は市の事業として行っていくのでしょうか。

(事務局 影山)

市の事業として行っていきます。

(伊豆会長)

例えば、発掘についても文化になりますので、自分たちの歴史を学びながら、新しい創造拠点を創っていくということも考えられます。また、お金さえあれば、施設を高い場所につくってしまい、発掘の様子をガラス張りの床で見えるようにするということも可能になるのかなと思いました。

基本構想案としましては、現時点の方程式をたてたということですが、長期的にはまだまだ検討していく余地はあるのかなと思いました。

(鈴木創造都市推進担当課長)

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックのなかで、日本の伝統的な文化を含めて、PR していくというプロモーションを日本政府が強化しています。2020 年のその先を踏まえて、レガシーを形成するという方針も国から示されています。そのような意味では、創造都市の観点からは、新しいものにだけに着目するのではなく、歴史的なものを大切にして、

再生させていく取り組み自体を、今後の文化プログラムに向けて本市として取り組んでまいります。そのため、発掘している期間も、市民の方に参加していただきながら、浜松市の文化遺産をどのように活用していくのかという議論も行っていきたいと考えています。

(寺田副会長)

市民の皆さんと共に創り上げていくことで、皆さんの愛着が生まれ、誇りあるものをしていきたいと思います。地域への愛着を育むことを、共に考えていきたいと思います。

3 閉会

(事務局 松本)

本日は会議にご参加いただきありがとうございました。次回の開催については改めてご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

これをもちまして、平成 29 年度第 1 回会議を終了いたします。